人文学部　　前期日程

令和6年度入学試験問題

総合問題

注意事項

1．この問題冊子は試験開始の合図があるまで開いてはいけません。

2．この冊子は全部で16ページあります。

3．Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ の全4問に解答してください。

4．それぞれの問題について解答用紙が配布してあります。この他に下書用紙も配布してあります。解答用紙には受験番号を記入する欄がありますが，下書用紙にはありません。間違えないようにしてください。

5．受験番号は解答用紙の指定された箇所に記入してください。決して氏名を書いてはいけません。

6．算用数字とローマ字は解答用紙の1マスに最大2文字まで書くことができます。

7．試験終了後，解答用紙を回収します。

8．問題冊子と下書用紙は持ち帰って下さい。

I　次の文章を読んで，設問に答えなさい。なお，語注(言い換え表現)を角カッコ内に示した。(配点 100 点)

(Japan's 70-year struggle against Hollywood film stereotypes, Japan Today, https://japantoday.com/category/features/kuchikomi/japans-70-year-struggle-against-hollywood-films-stereotypes より。改変あり。)

問 1　下線部(1)を日本語に訳しなさい。(配点 20 点)

問 2　本文の内容に基づき，第二次世界大戦後から 1980 年代までのハリウッド映画における日本人像の変遷を日本語 200 字以内でまとめなさい。(配点 40 点)

問 3　下線部(2)で示されているように，Yumiko Murakami は 21 世紀のハリウッド映画における日本人の扱いについて懸念している。彼女の指摘していることを日本語 200 字以内で説明しなさい。(配点 40 点)

II 次の文章を読んで，設問に答えなさい。(配点 100 点)

国籍は，特定の国家に属する資格を与え，その国で生活を営む上での様々な政治的・社会的権利を保障する。しかし，国籍が権利の基礎を与えるという事実は，同国内で生活を営む人々の間に国籍の有無によって享受できる権利の相違が存在していることを意味する。例えば日本の場合だと，国政参政権や国家公務員の受験資格は日本国籍を有している者に限定されており，公教育を受ける機会や生活保護の受給においても，日本国籍の有無によって処遇が異なる。また，日本の国籍付与の制度は，親の国籍を基準とする「血統主義」を採用しているため，たとえ日本で生まれ育ち，日本で生活を営んでいたとしても，帰化制度の利用などから日本国籍を取得しない限り，本人では変えられない親の国籍に応じて様々な権利上の不利を被ってしまう可能性がある。

政治的・社会的権利は社会生活を営むうえでの基本的な権利であることに鑑みれば，以上の点から外国籍の人にも居住実態に即して権利付与を行うべきだという意見もあるだろう。しかし，外国籍の人への権利付与については政治の場で長年議論が続いており，市井の中でも是非が分かれる問題である。では，人々の権利付与に関する多様な評価は何によって生み出されているのだろうか。この問いに対して，社会学者の田辺俊介氏らの研究グループは「ナショナル・アイデンティティ」から検討している。

ナショナル・アイデンティティとは，国家(ネイション)に自己を帰属させる認識を意味し，いわば「私たち(自国民)」と「彼女ら・彼ら(外国人)」を区別する態度として理解できる。田辺氏らが 2017 年に日本国籍を持つ日本人を対象に行った社会調査では，ある人を回答者と同じ「日本人」と見なすための条件を尋ねている。具体的には，「日本の国籍を持っていること(国籍)」・「日本で生まれたこと(出生)」・「先祖が日本人であること(祖先)」・「人生の大部分を日本で暮らしていること(居住)」・「日本語が話せること(言語)」・「日本の政治制度や法律を尊重していること(法制度順守)」・「自分自身を日本人だと思っていること(自己定義)」の 7 つの条件について，「とても重要だ」「まあ重要だ」「あまり重要ではない」「まったく重要ではない」の 4 つの選択肢から評価を求めている。さらにこの調査

では，種々の権利付与について，定住，もしくは定住意思のある外国人に認めるべきかという意見への評価を「５：そう思う」～「１：そう思わない」から評価してもらっている。

表１は，社会調査の結果から「出生」と「祖先」の２つの条件についての選択比率をまとめた表である。図１の棒グラフは，統計的な手法を用いて「日本人」の条件に関する回答の類似性で回答者を３つのグループ（グループＡ，Ｂ，Ｃ）に分割したうえで，「公営住宅への入居の権利」・「生活保護を受ける権利」の権利付与に対する評価のグループ間での違いを表した棒グラフである。それぞれグループＣと比較したグループＡの権利付与評価の平均値の差（グループＡの平均値－グループＣの平均値），グループＣと比較したグループＢの権利付与評価の平均値の差（グループＢの平均値－グループＣの平均値）を各棒は示している。各グループの特徴は以下の通りである。

- グループＡ：すべての条件を日本人と見なすための条件と認識しているが，他のグループに比較して「出生」や「祖先」を特に重視している。
- グループＢ：「法制度順守」や「自己定義」を重視するが，他の条件，特に「出生」や「祖先」を積極的に不要とみなしている。
- グループＣ：いずれの条件もとりたてて強く重視していない。

表１　「出生」と「祖先」の選択比率

	出生	祖先
とても重要だ	30.6%	25.5%
まあ重要だ	33.7%	29.6%
あまり重要ではない	28.6%	35.7%
まったく重要ではない	7.1%	9.2%

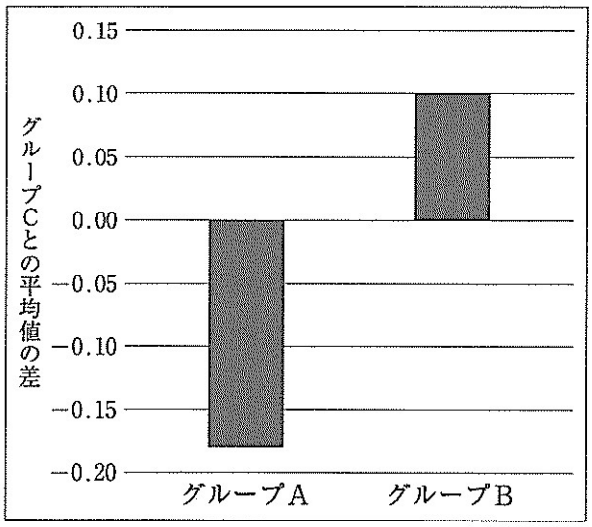

図１　グループごとの権利付与評価

（田辺俊介編著『日本人は右傾化したのか』勁草書房，2019 年，図表 1-1，付表 5 より作成。改変あり。）

問１　表１に示した「出生」と「祖先」の選択比率に基づき，「とても重要だ」に 4，「まあ重要だ」に 3，「あまり重要ではない」に 2，「まったく重要ではない」に 1 の数値を割り当てたときの「出生」と「祖先」の平均値をそれぞれ求めなさい。（配点 20 点）

問２　「出生」や「祖先」の条件は権利付与への評価とどのように関係しているのだろうか。グループＡとＢの特徴を踏まえて，図１から読み取れる関係を 70 字以内で説明しなさい。（配点 30 点）

問３　図１で示されている通り，「日本人」と見なすための条件によって外国人への権利付与に対する評価は異なるが，なぜ異なるのだろうか。考えられる理由を 100 字以内で具体的に説明しなさい。（配点 50 点）

Ⅲ 次の文章を読んで，設問に答えなさい。（配点 100 点）

（橋本毅彦・栗山茂久編著『遅刻の誕生』三元社，2001 年，pp.3-6 より。改変あり。）

問 1　本文では，近代的な時間規律を求められる事例として工場と鉄道が示されている。このほか工場と鉄道以外に近代的な時間規律が求められることとは何か。具体例を示し，その理由を 100 字以内で述べなさい。（配点 30 点）

問 2　なぜ現代社会を生きる日本人は，厳しい時間規律を守るのだろうか。その歴史的背景を 250 字以内で述べなさい。（配点 70 点）

Ⅳ　次に記すＡとＢの会話を読んで，後の設問に答えなさい。（配点 100 点）

Ａ　日本人ってどういう人たちのことだと思う？

Ｂ　日本の国籍を持ってる人でしょ。

Ａ　いや，そういう法律的なことじゃなくてさ，日本人らしいってどういうことだろう，とか，いかにも日本人だっていう特徴って何だろう，っていう話だよ。

Ｂ　ああ，そういうことね。うーん，私はそれって，いろんなことに相対的なんだと思う。

Ａ　「相対的」って，たとえば価値観は時代に相対的だって言われるときの，あの「相対的」？ この場合だと，時代によって価値観も違ってくるっていうことだけど…。

Ｂ　うん，そう。

Ａ　ふーん。じゃあ，Ｂさんの考えでは，日本人らしさとか，こういうのが日本人だっていう特徴は，いったい何に相対的で，具体的にはどんなふうに違ってくるの？

Ⅰ Ⅱ Ⅲ で取りあげられていた話題を踏まえながら，Ａの最後の問いに対する答えとしてＢが言いそうなことを 500 字以内で記しなさい。